

1. 2月全国行事

1) 省エネルギー月間

2月1日～2月28日

2. 安全・衛生・防災の心得 : 要注意、厳寒期の不安全な状態

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

4. 他社の事故・災害事例から : ドラム缶の廃液が噴出して薬傷

5. 今月のヒヤリハット

2. 安全・衛生・防災の心得 : 要注意、厳寒期の不安全な状態

冬期は、夏期に次いで事故や労災が多い時期ですが、特に1月2月の厳寒期は、「寒冷」が要因となる事故や災害が発生しがちです。

近畿以西の比較的温暖な地方では、思わぬ寒波に見舞われると、慣れていないため、事故などのトラブルを招いてしまうことがあります。

地域を問わず、次のことに注意しましょう。

- ①寒冷による作業手順の省略やハンドポケット着ぶくれなどによる不安全行動。
- ②電気設備の着雪による断線や電気事故。
- ③積雪および雪の吹き溜まりによる排気口などの閉塞による事故。
- ④積雪や凍結による構内通路・道路等の滑り。
- ⑤除雪作業時の転落や除雪機械での事故。
- ⑥換気不良による有毒ガスや蒸気などの中毒。
- ⑦機械の潤滑液や冷却水等の凍結や詰まりによる機械や設備の故障や不調。
- ⑧低温で金属等がもろくなり、とくに衝撃力が加わると「低温脆性破壊」の危険がある。
- ⑨配管やバルブ内等での氷結(体積が10%増)によるパイプ等の破壊。
- ⑩緊急用の消火用水や救急洗身・洗眼器の凍結。
- ⑪暖房器具等火気取り扱いによる火災。
- ⑫空気の乾燥による静電気の発生と障害、など。

これらの冬期特有の事故や災害を防止するため、設備等の点検を徹底し、KY活動やリスクアセスメント等を活性化していきましょう。

3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

平塚第一工場: 排水処理設備の主要バルブに番号を付け、パネル板で開閉の状態を管理していた。



4. 他社の事故・災害事例から : ドラム缶の廃液が噴出して薬傷

<災害のあらまし>

産業廃棄物の処理場において、廃液が入ったドラム缶から液が漏洩するので、新しいドラム缶に詰め替えを行っていた際、フェノール等の有害・有毒物を含んだ廃液が吐出し、作業員2名が顔や身体に廃液を浴びて薬傷を受け、その後の救急処置が遅れるなどして傷害が悪化し、休業災害となりました。

<災害の主な原因>

- ①廃液が入ったドラム缶を倒した状態で開栓したため、吐出量の調整ができず多量に吐出したこと。またジョウゴ(漏斗)が小さく、多量の吐出液を受け流せなかったこと。
- ②廃液の性状・成分等を確認しないまま取り扱っていたこと。廃棄元が危険・有害性等を詳細に通知しなかったこと。
- ③保護メガネ、保護衣などを使用・着用していなかったこと。
- ④救急処置の洗身・洗眼を直ちに行い、医者へ急行するなどの処置が不適だったこと、など。

<同種災害の防止対策 例>

- ①作業前に取り扱う物の性状や危険性等の調査と確認を行い、必要な安全対策を行う。
- ②保護衣や保護メガネなどの保護具を着装する。
- ③この種の詰め替え作業においては、安全なポンプ等の用具を使用する。
- ④薬品等を取り扱う場所には洗身設備を設け、緊急・救急処置等の教育を行う、など。

5. 今月のヒヤリハット:各事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

「ついちょっと 小さな手抜きが まねく事故」

事例	脚立を登る際、転倒しそうになった。
どこで	産廃置き場で。
あらまし	産廃置き場にて検査サンプルを廃棄する際、検査サンプルが入った箱を両手で持って脚立を登ろうとした所、脚立が揺れてバランスを崩し、転倒しそうになりヒヤリとした。
原因	両手にサンプルを持って脚立に登ろうとしたこと。
教訓・対策	脚立に登る際は、片手をフリーにして手すり等をつかめるようにすること。

6. その他

<WORMBIZ> 「暖房に頼り過ぎない」「寒いときは着る」働きやすく暖かく、格好よいビジネススタイルで節電対策をお願いします。

安全衛生、交通安全、環境保全の標語応募締め切りは1月31日です。

「出来ることから即実践、習慣付けよう省エネ職場」 H26年度環境保全最優秀作品